

令和5年度事業報告

我が国では、近年、気候変動の影響とされる記録的な台風や想定を超える降雨が頻発し、これまで経験しなかった河川の氾濫や浸水による深刻な被害が繰り返し発生している。

河川ポンプ等の内水排除施設は人々の生命、財産を浸水被害から守る河川管理施設として重要な役割を担っているが、近年、老朽施設が急増し、厳しい財政状況下にあっても適切な維持管理・更新の実施が求められている。さらに、被災地域等では新設を求めるニーズも増加している。一方、内水排除事業を担う施設管理者や関係民間企業においては熟練技術者不足、高齢化、人材確保難が深刻化し、事業体制の弱体化が懸念されている。

国土交通省では、これら河川機械設備の諸課題について社会資本整備審議会において審議され、システム全体の信頼性の確保、遠隔化・自動化・集中管理への移行、技術力の維持向上へ向けての設備のあり方が示されている。また、これらに対応する新たな技術開発の取組みも進められている。

一方、河川ポンプ施設の建設・維持管理などの事業活動全般において、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進による合理的、効率的な事業体制構築が求められている。

令和5年度事業では、これらの状況に対して、施設管理者等と連携を図りつつ、激甚化する水害への対応や施設老朽化対策等の課題への取組み、河川ポンプ分野のDX推進に向けた取組みなど、技術の向上、人材育成及び現場・関係者の支援に向けた活動を進め、国内のポンプ施設の合理的な建設・維持管理の実現に貢献することを目指した。具体的には、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を考慮しつつ、河川ポンプ施設技術の調査研究及び普及、河川ポンプ施設に関する技術者の養成、河川施設に関する広報活動等を柱として、以下のとおり事業を実施した。

また、公益目的支出計画に基づく事業は引き続き着実に実施している。

1. 総会・理事会

1. 1 令和5年度定時総会

令和5年5月24日 令和5年度の定時総会を開催し次の議案について審議し承認された。

議案	第1号議案	令和4年度事業報告の件
	第2号議案	令和4年度決算報告の件
	第3号議案	役員選任の件
報告	公益目的支出計画実施報告書の報告	

1. 2 理事会

令和5年5月9日

令和5年度定時総会議案について審議決定した。

令和5年度定時総会の招集方法について審議決定した。

令和5年度運営委員7名を選任した。

令和5年12月7日

令和5年度上半期事業及び予算執行について審議した。

令和6年度事業計画及び予算について審議決定した。

令和6年度委員会の設置について審議決定した。

令和6年度定時総会の日程について決定した。

2. 運営委員会

(1) 理事会に提出する議案の企画・立案

協会運営の基本的事項の審議及び令和5年度の理事会に提出する案件の企画・立案を行った。

(2) 協会事業の展開に関する審議

公益目的支出計画完了後に向けて、協会事業の見直し等について審議した。

(3) その他協会運営に関する審議

① 災害への対応

東北、関東、北陸、中部、近畿、中国の各地方整備局及び北海道開発局と災害協定を締結しており、協定に基づき各地区の関係会員による実施体制を提出した。

また、協定に係る近畿地方整備局の災害対策に関する訓練に参加した。

② 意見交換会等の実施

ポンプ施設に関して、市場の安定的な確保や維持管理対応等の課題について国土交通省との意見交換を行った。

令和5年 4月28日 国土交通省本省

令和5年 12月20日 国土交通省本省

令和5年 12月21日 近畿地方整備局

3. 委員会

3. 1 広報研修委員会

(1) 機関誌「ぽんぷ」の発行

公益活動の一環として、機関誌「ぽんぷ」の第70号を9月に、第71号を3月にそれぞれ2,000部を発行し、国土交通省、地方公共団体、関係法人、会員等に配布した。

第70号では、ポンプ設備のAI診断技術の取組や排水機場における点検・整備と信頼性に関する報文、ポンプ設備の分解整備・更新の工事報告、荒川上、中流域の排水機場紹介等の記事を掲載した。第71号では、技術講話会における講演内容の紹介、総合的な治水対策により整備した排水機場の効果、赤川の排水機場紹介、機種変更を伴うポンプ設備の更新事例等の記事を掲載した。

(2) ホームページの拡充

ホームページを活用し、行政機関や一般市民向けの河川ポンプ施設に関する広

報の充実を図った。

(3) 国・地方公共団体等の講習会、研修への協力

国土交通大学校、地方整備局等が実施する技術研修へ講師を派遣した。

令和5年 10月24日 中国地方整備局

令和5年 11月15日 国土交通大学校

令和5年 11月21日 東北地方整備局

令和5年 12月 6日 国土交通大学校

令和5年 12月 7日 国土交通大学校

令和6年 1月15日 東北地方整備局

(4) ポンプ施設技術講習会の実施

9月に全国5会場でポンプ施設技術講習会を実施した。

〔本講習会は、継続学習制度の認定学習プログラムに登録〕

受講者数 101名

(5) 技術研修会等の実施

① 技術研修会

会員の技術力研鑽のための技術研修会として、水資源機構の先進的なDX取り組み現場の見学を実施した。なお、実施概要を機関誌「ぼんぷ」71号に掲載した。

〔本研修会は、継続学習制度の認定学習プログラムに登録〕

令和5年11月 8日

参加者数 22名

② 技術講話会

外部講師を招き、「インフラ分野のデジタルトランスフォーメーション(DX)をはじめとするイノベーションの推進について」及び「マスプロダクツ型排水ポンプ設備の現場実証状況について」を演題とする講話会を開催した。

なお、講演内容の要約を機関誌「ぼんぷ」71号に掲載した。

〔本講話会は、継続学習制度の認定学習プログラムに登録〕

令和5年11月 1日

参加者数 91名

3. 2 技術開発委員会

(1) 新しい技術の開発・導入に関する検討

ガスタービン等の既開発・導入技術についてフォローアップ調査を行い、結果を取りまとめた。また、ポンプ設備の状態監視に関するWGを開催し、ポンプ設備の状態監視に資する判断材料の検討及び取りまとめを行うとともに、マスプロダクツポンプ検討WGを開催し、意見交換を行った。

(2) 河川ポンプ分野のDX推進に資する調査、研究開発

河川ポンプ施設のBIM/CIM原則適用に向けた情報収集、並びに河川ポンプ分野のDX推進に向けての調査検討を行った。

(3) 河川ポンプ施設に関するニーズに関する調査、課題解決に向けての検討

河川ポンプ施設の現場のニーズに関する調査を行うとともに、諸課題解決に向けての検討を行った。

3. 3 規格調査委員会

(1) ポンプ施設に関する技術講習テキストの改訂検討

技術講習に用いている「ポンプ施設の建設と管理」の改訂を行った。

(2) 国際交流の推進

海外の研究機関、行政機関との技術交流として、オランダ及びフランスにおけるICTを活用したデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組み状況等について調査した。また、現地訪問先では関係者との意見交換、関連施設の視察を通じて実情把握を行った。

なお、調査結果の要約を機関誌「ぽんぷ」71号に掲載した。

期間 令和5年9月30日～10月8日

3. 4 維持管理委員会

(1) 操作技術向上検討会等の実施

排水機場の施設管理者及び操作員を対象とした操作技術向上検討会を2回開催した。

令和5年 8月24日 九州地方整備局管内

令和5年10月25日 兵庫県管内

(2) ポンプ施設の運転操作等の課題に関する検討

ポンプ施設の機能確保、故障発生時の迅速な復旧のために、ポンプ施設の運転操作、点検・診断・修繕等にかかる課題について改善策の検討を行った。

(3) 河川ポンプ施設に関するデータ管理に関する検討

河川ポンプ総覧の基礎資料として、河川ポンプ施設のデータ収集及び整理を行った。また、河川ポンプ分野のDXに向けてデータ管理の方策について検討した。

3. 5 資格制度委員会

ポンプ施設管理技術者の資格制度について、今後の改善等について検討を行った。

4. ポンプ施設管理技術者の試験及び講習の実施

(1) 令和5年度ポンプ施設管理技術者資格試験の実施

令和5年10月29日(日)、札幌、東京、名古屋、大阪、高松、福岡の全国6会場でポンプ施設管理技術者資格試験を実施した。

受験者数 225名(1級92名、2級133名)

合格者数 132名(1級45名、2級87名)

(2) 令和5年度ポンプ施設管理技術者講習の実施

講習資料として「ポンプ施設管理技術者講習テキスト2023」を作成した。

令和5年5月に全国9会場でポンプ施設管理技術者講習を実施した。

[本講習は、継続学習制度の認定学習プログラムに登録]
受講者数 531名

(3) ポンプ施設管理技術者に関する広報
ポンプ施設管理技術者制度の広報を行った。

(4) 試験審査関係委員会

① 試験委員会

令和5年度資格試験の試験問題原案の作成、監修、採点等を行った。

② 審査委員会

令和5年度資格試験の試験問題及び合格基準等についての審議を行った。

5. 受託業務

内水排除施設の建設技術、管理技術に関する調査研究及び開発、並びにその技術的基準の作成及び普及に関する業務について、国土交通省等から9件を受託し実施した。